Q　教員の大量退職と大量採用の現状を踏まえ、ベテランの技術や心構えなどを若手に伝えていく方法について教えてください。

A　教員が自らの資質や能力を向上させるため、学校の内外を問わず専門知識や技能の習得、自己啓発を進め、教職経験年数や職務に応じた資質や能力を身に付けるため、たえず研修に努めることが大切です。「教員の質の向上に関する調査研究」によれば、授業実践や教育に対する考え方に影響や変化を及ぼしたと思われる事柄として、「学校内での優秀な教員との出会い」が群を抜いて高いといった調査結果があります。このことにより、校内で行うＯＪＴが教職員の資質向上を図る上で有効であることが分かります。また、今後、学校を支えてきた経験豊かな教職員の大量退職を迎え、実践的知識や指導技術を組織的・計画的・継続的に次世代の若手教職員や、中堅教職員に継承していく機会がますます重要となります。以前であれば、若手教員は教育活動を展開する中で、経験豊かで、かつ先輩でもあるベテラン教員から知識・技能などが伝授されるという図式が成立しました。しかしながら、昨今は様々な要因が絡み合って、これまでのようなベテラン教員から若手教員に知識や技能、心構えなどが必ずしもスムーズに伝承されていかない面が生じてきています。指導経験の浅い教員が増える状況において、教育の質の維持・向上をどのように図るかが大きな課題となっています。

校内「ＯＪＴ」の推進

教員の学校内での学びを考えた場合、教員が協働による教育活動を展開する中で、ベテラン教員が場やタイミングを見計らって身に付けさせたいものを伝授することが考えられます。その際、漫然とそれを行うのではなく、若手教員が現場での体験を通して学ぶというねらいを明確にして意図的に行うことが大切です。すなわち、「職場の中で日常的な職務を遂行しながら、仕事に必要な知識や技能、意欲、態度などを、意識的、計画的、継続的に高めていく人材育成の取組」である「ＯＪＴ（On the Job Training）」を推進する観点を大事にしながら展開することが考えられます。

意欲的に学べる校内環境の整備

教職に携わる者は、経験年数の長短に関係なく、常に人として発展途上にあることを意識しなければなりません。そのためには、自己啓発に努めながら、専門職としての力量アップを心掛けることが求められます。したがって、若手教員がベテラン教員や高い能力を有する教員から主体的に、かつ貪欲に学んでいくやる気や向上心を醸成する雰囲気、機運に満ち溢れた人的・物的な校内環境をつくることが大切です。先の「ＯＪＴ」の充実を図る中からも、教職のさらなる魅力に気付き、職責を全うしようという意欲を高めさせることができます。

人材の育成

学校教育を活性化し、元気に推進していく人材の育成は校長の役割の一つです。その役割を果たすためには、校長として積極的に若手教員を学校経営に参画させる機会を増やしたり、共に経営ビジョンを築く場を設けたりすることを心掛けることが大切です。具体的には、教職経験の浅い時期から教職生活全体を通じて使命感や専門性を高めていき、教職において必要な技術、心構えなどを獲得できるように手立てを講じることが求められています。そして、校内で行う研修会においても、若手を育てるスタンスで企画し、教育に携わっていく意欲や誇りを意識付ける内容、ベテラン教員からの指導助言の機会を得やすい内容を盛り込んだ研修の充実に努めることも大切なことです。また、小規模校などでは近隣の学校と連携して合同の自主的な勉強会を開催することも考えられます。一方、校長自らが教員の先頭に立ち、教員と共に物事を遂行する姿勢を示して、学び続ける教員像を身をもって示すことも効果があると思います。資質や能力の向上を図るために、若手教員に大学院等での研修の機会を提供することも考えられます。

これからの教育現場において、校長はベテラン教員と若手教員との意思疎通を図り、信頼関係を深めながら互いに切磋琢磨し、共に学び、成長していこうという機運を高めていくことに留意することが大切です。そのためにも、校長は日頃から実務を通して将来を任せられる人材の発掘と育成を行っていく視点を大切にしていくことが必要です。

校種	全校種